

岩沼出張所つうしん

第 43 号
平成 17 年 3 月 9 日
仙台河川国道事務所 岩沼出張所
岩沼市館下 1 丁目 2 - 9
TEL 0 2 2 3 - 2 2 - 2 8 0 1

第 4 回 岩沼地区 工事 安全パトロールを実施

岩沼地区（岩沼出張所、角田出張所、仙台海岸出張所、岩沼国道維持出張所、水野建設監督官、請負業者で構成）の第 4 回安全パトロールが、2 月 23 日（水）に発注者側・請負者側、合わせて 35 名の参加で行われました。

午前 9 時に岩沼出張所を出発し、巨理町の「阿武隈川荒浜地区築堤工事」〔野村建設（株）〕と山元町の「中浜地区海岸工事」〔（株）橋本〕の工事現場をパトロールし、午後からは巨理町荒浜支所において、（株）橋本の玉上理事より「建設工事の安全対策」についての講話のあと、2 現場のパトロール結果の反省会が行われました。

この安全パトロールは、3 月の年度末のあわただしい時期に向かって、工事事故の未然防止のために、大勢の目で現場の安全を確保するために行われたものです。



「阿武隈川荒浜地区築堤工事」
現場事務所前で現場代理人が説明
【安全第一!!】

学水館・あぶくま裏の堤防天端を車両通行止め！



学水館裏の車両規制柵

岩沼市・下水道工事の迂回路として開放しておりました「学水館・あぶくま」裏の堤防天端を工事完成と共に、車両通行止めに戻しました。

この車両通行止めの措置は、学水館に勉強にきた小学校の児童が、学水館から阿武隈川の高水敷に移動する際の安全ウォーキングを行っている歩行者の安全サイクリングを行っている自転車の安全等を確保するため、現地に看板等を掲げ、1 ヶ月程度の周知期間をとり、平成 16 年 10 月 20 日より、通行止めを行ったものです。

普通車の方は、市道、押分排水機場・沈砂池上の橋、阿武隈橋左岸に上がる坂路を利用して、国道 6 号までの通行をお願い致します。大型車の方は、市道及び国道を迂回して通行をお願い致します。

また、車両通行止めに合わせて、学水館裏の車両駐車場を整備しております。国道 6 号を利用して学水館を訪れた方のために、4 月から利用できるように整備を進めました。車を駐車の上、学水館表玄関まで、徒歩でお回り下さい。また、堤防坂路を利用して、学水館表駐車場までも、車でお越しいただけます。ぜひ、お越し下さい。



学水館裏の駐車場（新設） お待ちしております。

牛袋水防倉庫前の階段工

地元の要望を受けて

地元町内会、水防関係者、巨理町等の要望を受けた、阿武隈川右岸 5.6 km 地点・牛袋水防倉庫前の階段が、このほど完成致しました。

今までは、折り返しの坂路を利用しての水防資材等の運搬でしたが、階段を利用しての素早い運搬が可能になります。水防や消防等、多方面に利用して頂きたいと思っております。



阿武隈川水系河川整備基本方針 (第2回)

第2回目は、「流域及び河川の概要」のうち、阿武隈川流域の自然と上流部や中流部・福島県内の動植物や魚類についての記載です。これも読んでいただければ、理解できる部分です。

阿武隈川流域は、四方を日光国立公園、磐梯朝日国立公園、阿武隈高原中部県立公園、^{りょうぜん}霊山県立自然公園、蔵王連峰国定公園の山々に^{はんだい}囲まれ、白河・郡山・福島などの盆地と福島県指定名勝及び天然記念物に指定されている阿武隈峡や宮城県立自然公園となっている阿武隈溪谷などの狭窄部を交互に流れ、河床勾配が1200~14,000と変化に富んだ河川景観と豊かな自然環境を形成している。一方、沿川には、東北新幹線、東北自動車道、国道4号等の基幹交通施設が整備され、交通の要衝となっている。

流域の東側の阿武隈山地は花崗岩類で占められており、一方西側の奥羽山脈は安山岩類や流紋岩等を火山噴出物が覆っている。阿武隈川は、その間を阿武隈山地に偏って流れ、洪積層・沖積層の盆地、平野が形成されている。流域の年間降水量は阿武隈山地が約1,200mm、奥羽山脈が約1,500mm、平野部が約1,100mmとなっている。

山間溪谷部を流下する源流付近は、奥羽山脈の雄大な連峰を背にブナやナラ類等の広葉樹林帯を流れ、瀬、淵の連続する溪流にはイワナやヤマメ等が生息している。

郡山盆地を流下する上流域は、流れも緩やかで沿川には郡山市等の都市が形成されている。高水敷には帰化植物が多く侵入しているものの、オオムラサキの生息場となるエノキ等の樹林が小面積ながらも形成されており、カヤネズミの生息場となるヨシやオギ等の^{かんりゅういき}草地が見られ、水際にはタコノアシも確認されている。水域では、メダカやゼニタナゴ等の緩流域を好む種の生息が確認されている。

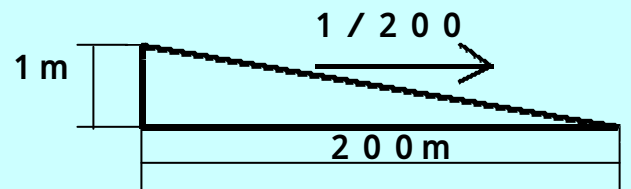
上流から中流にかかる阿武隈峡は河床勾配が1/30~1/300と急流で岩肌が露呈し、蛇行を繰り返しながら流れ、^{ほうらいいけ}蓬莱岩や^{ちこがたい}稚児舞台等をはじめとする、数多くの奇岩が点在する壮大な峡谷景観となっており、福島県指定名勝及び天然記念物となっている。コナラやエノキ等の生育する河岸の樹林には、オオムラサキ等が生息している。水域では、阿武隈川を代表する天然のアユやサケ、サクラマスが、河口から83kmにある信夫ダム直下まで遡上し、砂礫河床となっている早瀬はアユやサケの産卵場となっており、砂底を好むスナヤツメの生息も確認されている。一方、信夫ダム上流部には放流アユ等が生息している。

福島盆地を流下する中流域は、福島市街地が形成されており、川幅もやや広くなり、流れも緩やかである。高水敷には帰化植物の侵入が多く見られるものの、オギ、ヨシの群落やヤナギ類等が水際線を形成しており、カワヂシャ等も確認されている。冬にはオオハクチョウやカモ類の渡り鳥の飛来も多く風物詩となっている。

..... 用語の解説

^{かしょうこうばい}
河床勾配 : 川底の傾斜の程度。

^{かんりゅういき}
緩流域 : 流れの緩やかな場所。



あとがき

雪国育ちの筆者には、初雪が降った程度の積雪(15cm)で、車がのろのろ運転になり、国道等が渋滞する状況が不思議でなりません。しかし、雪に慣れていない地域の実情が、工事施工等にも影響している現実を見ると、宮城県の冬は「西高東低」冬型の気圧配置が、平年的であることを強く感じます。現在、管内の請負業者は、雪を伴う低気圧等に影響されながら、年度末の工事完成に向け、気の抜けない日々を送っています。早く、天気が落ち着きますように。

「岩沼出張所つうしん」はインターネットでも見られます
仙台河川国道事務所ホームページ <http://www.sendai-mlitgojp/>